



日出真司
“Enshrinement”

Group Exhibition by Various Artists

Lens – Shapes of beauty

2016.7.19(Tue) — 30 (sat)

日、月、休廊 Closed on Sunday, Monday

12 : 00 — 19 : 00

【出品作家】

菊池史子(モノタイプ)、日出真司(写真)、平野健太郎(日本画)、
柳田有希子(チタニウム)、湯浅克俊(木版)、Elizabeth Leroy(フォトコラージュ)

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

YUKI-SIS では、7月19日(火) – 30日(土) 6名の作家によるグループ展
「Lens - Shapes of Beauty」を開催いたします。

今回の展覧会では、6名の異なる技法の作家を選びました。彼らの視線 — 彼らの水晶体がとらえたもの。それぞれの技法により、自然やそのものの存在から彼らのフィルターを通して、その記憶を「美しさ」のかたちに変容させています。

いつかは消えあせてしまう景色や記憶、想い—その残像から作品にとどめられた姿は、私たちとつながり、新たな世界へと導いてくれます。ぜひご高覧ください。

菊池史子 Fumiko Kikuchi (モノタイプ)



菊池史子「花殻 I」

現在ドイツで活動する菊池史子はモノタイプという版画の手法を使って作品作りをしています。

1986年生まれ。2009年日本大学芸術学部（芸術学科絵画コース/版画）を卒業後、渡独。現在ドイツ、ブラウンシュバイクで作家活動を行っています。

版画を専攻していた彼女は、“記憶”や“関係性”をテーマに撮りためた写真を厳選し、版画で使う雁皮紙や洋紙に染料を写し取り作品を仕上げています。どこかで見たことがあるような、デジャヴー既視感を起こすような作風は、人の奥底に潜んだ記憶にそっと寄り添い、時とともに薄れ消え去っていく風景、人の感情、人とのかかわりを思いおこさせてくれます。

Elizabeth Leroy (フォトコラージュ)



Elizabeth Leroy “Beautiful savage”

フランス北部、コンピエーニュに住むエリザベス・ルロアは、木々や草花、風景をモチーフとした写真をベースにコラージュ作品を発表しています。

彫刻家の母を持つエリザベスは、14歳の頃から様々な試みをアート作品にしてきました。舞台芸術などに

も強く惹かれ、パリの有名な劇場、コメディイフランセーズでの舞台美術を担っています。
創作活動当初から、写真は彼女にとって大切な表現手段の一つであり、ここ数年は自然を題材した複数のイメージを重ね合わせ、ペインティング、コラージュを施した独自の世界感を作品に投影しています。

柳田有希子 Yukiko Yanagida (チタニウム)



柳田有希子「ここではないどこか Anywhere but here」

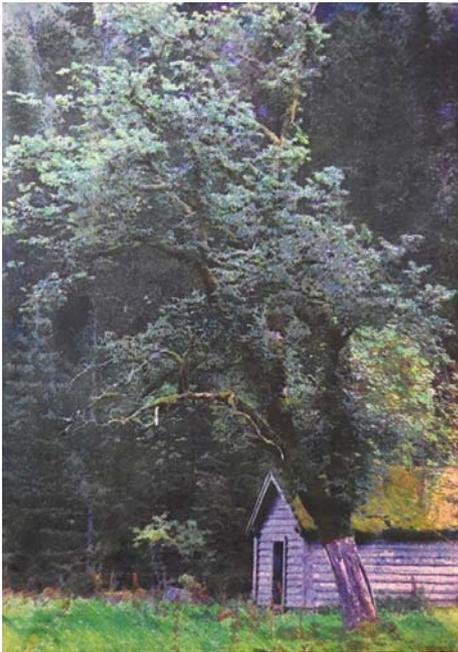
1981年東京生まれの柳田有希子は、2005年多摩美術大学大学院彫刻専攻修了。
その後も個展やグループ展の他、中之条ビエンナーレ、大黒屋現代アート展など、様々な方面で作品を発表し続けています。中でも、2013年のタグボートアートフェスでは、圧倒的な存在感で審査員特別賞をW受賞、続く2014年の横浜アートコンペティションではグランプリを受賞。今後がもっとも期待される若手作家です。

彫刻を専攻していた彼女が、立体作品と並行してここ最近制作しているのは、金属のチタンを使った作品です。チタン板に異なる電圧を与える事で、化学反応による様々な色を引き出すこの作品で、柳田は心象風景一手に入らないものをそこに留める一ことにトライしています。

それは自然界における風景、突然現れては消える霧、水流、虹など、2度と同じ姿をとどめる事のない、その一瞬を作品として焼き付けたいという思いです。

記憶に作品を近づけ、定着させる行為。それは、観るものの隠れた記憶にそっと寄り添い、忘れていた感覚を呼び起こすようです。

湯浅克俊 Katsutoshi Yuasa (木版)



湯浅克俊「The photograph is an image」

1978 年生まれの湯浅克俊は、武蔵野美術大学油絵学科版画専攻卒業後、渡英。2005 年ロイヤルカレッジオブアート（ロンドン）修士課程終了。日本をはじめイギリス、ドイツなどを中心に世界中で活動し、すでに欧米での個展も多く経験、数々の世界的なアートフェアなどにも出品。

今回の展覧会では、彼の目に映り撮影した自然の景色を、日本の伝統芸術の一つともいえる木版という技法に置き換えた作品をご紹介します。驚くべき木版技術ですが、その以前に圧倒的な美しさに私たちは感嘆せざるを得ません。

平野健太郎 Kentaro Hirano（日本画）



平野健太郎 Kentaro Hirano 「湖水」

1972年福岡県北九州市生まれの平野健太郎は、武蔵野美術大学造形学部日本画科卒業。日本画の技法を用いながら、樹々に宿る神秘的な風景や水面に映る揺れる木々など、空気感と自然の美への憧憬の念を表現しています。

やがては消えていく光や水、捉えがたいものに魅かれ、存在するもの、実態のあるものよりも、現実と空想の狭間にある、もう一つの世界を捉えたいという気持ちを、美へと昇華させた作品です。

日出真司 Shinji Hinode (写真)



日出真司 Shinji Hinode [Cage]

1962年東京生まれの日出真司は、武蔵野美術短期大学で商業デザインを学び、現在はフリーランスのグラフィックデザイナーとして活躍する傍ら、写真家として数々のパブリックアートなどで活躍しています。

私たちが日常見落としてしまう何気ない景色を、異なる視線から捉え、そこに新たな美しさやストーリーを生み出す、不思議な写真をつくりだしています。

まるでそれは、モノクローム映画の一コマのような、一瞬の世界。彼のレンズにとまった景色は、私たちを異空間へ連れ出してくれます。